

令和5年度自己評価結果公表シート

作成 キッズステーションしょうぐんの

1、本園の教育目標

にこにこ すくすく いきいきと育つ子ども

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・園児一人ひとりの発達や成長の幅を考慮し、計画・実践する。
- ・乳幼児理解を深めることができるよう、日々の話し合いや記録を大切にしながら、保育者間の密な連携を図る。
- ・保育者各自の研修を重ねるとともに、さらに園全体の資質向上のため、研修したことを他の保育者伝えたり、発信したりしていく。

3、評価項目の達成および取り組み状況

	評価項目	結果	取り組み状況の反省
学園の重点項目	保育目標の具現化に向け、運動・音楽・絵画・自然を生活の中で総合的に取り入れた保育を計画・実践する。	A	乳幼児の発達に応じて、豊かな体験ができるよう保育者同士で相談し合い、遊びの環境を作りあげていくことができた。特に、園外保育を多く取り入れ、自然を通しての直接体験や体力づくりができた。
自園の重点項目	年齢や発達に応じた活動であるかを意識しながら、子どもの動線を観察・予測しながら環境を整える。また、危険な遊び方はないか園児にもなげかけ気づけるようにする。	A	子どもたちが選んで遊べるような環境をつくり、静と動を考えながら保育展開してきた。保育者のアイディアを活かし、手作りの遊具や玩具を多く取り入れることができた。 噛んだり引っかいたりという低年齢ならではのトラブルや公園での安全を守るために保育者の立ち位置等を確認しながら過ごしてきた。
	乳幼児のことについて常に保育者同士で話し合い、クラス、学年をこえてティーム保育を展開する。	B	打ち合わせや会議の時間を工夫してつくり、少人数での話し合いを、全体に伝達していけるような体制を作ったことで、連携して保育を進めていくことができた。さらに、保育の計画や内容等について話し合い研究できるような機会を作っていきたい。

4、学校評価の具体的な目標や総合的な評価結果

結果	理 由
A	保育者が連携しながら子どもたちの成長を支え、子どもたちが様々な体験を積み重ねられるよう創意工夫しながら過ごしてきた。また、秋田市の要請訪問等があったことで、保育を見直し、互いに学び合うことができた。

※3，4の評価結果の表示方法

【A】…十分達成されている。【B】…達成されている。【C】…取り組まれているが、成果が十分ではない。

【D】…取り組みが不十分である。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育の計画性と環境構成の在り方	園児一人ひとりの発達を捉え、次にどんな経験が必要か考えながら、カリキュラムを立て、保育実践を通し、さらにまた、次の保育への見通しをもって進めていけるようにする。生活面に関しても食事・排泄等、タイミングをみて計画的に働きかけていく。
オープン保育・コーナー遊びの充実とティーム保育	低年齢であるために、同じ学年でも、誕生月の違いなどから個々の発達に差が生じることが多い。そのため、同じ遊びを一斉に経験するのではなく、個々の興味関心にそった遊びが必要になってくる。保育室の中に、数種類の遊びを環境設定し、選んで遊んでいけるような環境づくりを心がけたい。また、その際、保育者間で連携し、相談しながら保育していく。